

神戸新聞 2021年10月08日 金曜日 面名 淡路 13 25ページ

南あわじ 緑色の湖にかかる古びた橋…。そう思いきや、これは昔のダムらしい。南あわじ市八木馬回にある「旧成相池堰堤」。完成から71年たつ今年、公益社団法

人「土木学会」（東京）が、歴史的な土木建造物をたたえ、保存につなげる「選奨土木遺産」に認定した。

（上田勇紀）

役割終えたダム 今も湖に沈む



管理する淡路県民局洲本土木事務所によると、堰堤の高さは33m。橋のように見えるのは堰堤の上部4層ほどで、残り29層は湖の中に沈んでいる。ダムの役割を終えた後も、そのまま水中で保存されている、珍しい建造物だ。

経緯は、昭和初期までさかのぼる。深刻な農業用水不足にたひたひ見舞われたことから、三原川水系成相川の上流に建設が決まった。「成相耕地整理組合」が主体となり、1937（昭和12）年に着工。50（同25）

年に完成した。この間、要した時間は13年。水利調整、資金調達、激しさを増す太平洋戦争による努力・資材不足…。度重なる苦勞を乗り越え、つ

いに完成に近づけた。粗石モルタル造で、堤の長さは113・3m、貯水量97万5千立方m。農業用水不足を補う「利水」の分野で効果を発揮したという。

ところが、昭和50年代に三原川水系の下流域で水害が起り、県は82年、「三原川総合開発事業計画」を作った。洪水などに備える「治水」分野も対応できる成相ダムが新たに建設され

水不足、建設の苦勞伝える

旧成相池堰堤が土木遺産

なりあい いけえんてい

①公益社団法人「土木学会」（東京）が認定している「選奨土木遺産」は何を目的にしていますか。

歴史的な

②昭和初期に旧成相池堰堤の建設が決まった理由を書きましょう。

③成相池堰堤は、何年に着工し、何年に完成しましたか。
年に着工。年に完成。

④その建設期間中にはどんな苦勞がありましたか。

⑤旧堰堤が、役割を終えた理由を書きましょう。

⑥兵庫にある「選奨土木遺産」を調べてみよう。

旧堰堤は、下流に成相ダムができたことで役割を終えた。取り壊しはせず、ダム湖に沈んだ。水不足や建設の苦勞をいまに伝える。

淡路島内の土木遺産は、上田池堰堤（南あわじ市）、江崎灯台（淡路市）に続く3例目。水源開発に取り組んだ先人の努力を後世に伝え、建設当初の粗石モルタル造が保持されていることが認定の理由という。

洲本土木事務所は「PRを検討中。成相ダムの見学会で紹介するなどして、土木遺産となった堰堤のことを知らせていきたい」としている。

湖に上部だけ顔を出している旧成相池堰堤。いずれも南あわじ市八木馬回洲本土木事務所提供

湖に沈む前ダムとして使われていたこの堰堤の姿